

素人の神話考⑥「インド神話紀行（ベトナム・カンボジア）」

1. はじめに

H19（2007）11月24日～30日に旅した憧れのアンコールワット訪問記。東南アジアで特に興味を抱いていた遺跡を観光し大いに感動。仏教とヒンズー教の歴史遺跡で“クメールの微笑み”と呼ばれる巨大な石像観世音菩薩の林立した寺院建築と壁面の經典絵巻物等の石彫壁像が特に印象に残った。エジプトのピラミッドと同様に単なる遺跡ではなく、灌漑用水利用と民衆救済事業ではとされている。

日本は国際協力開発援助（ODA）によりベトナムから大変感謝され良好な関係にありながら経済的には中国・韓国の進出が著しく出遅れている。関空を出発して5～6時間でハノイのホテルには深夜に到着。飛行時間もそれ程長くなく、現地の気候は意外と湿気と暑さを感じさせない。

2. ベトナム首都ハノイ

（ハーロン湾クルーズ）・・海の桂林と呼ばれ、筍のように聳える奇岩の島々が幻想的。ハーロン＝龍が舞い降りたの意味、タンロン＝龍が昇るの意味

（タンロン水上人形劇）・・他国に無い素晴らしいベトナム人間国宝的な芸術遺産。水面上の人形を舞台裏の黒子が水に浸かりながら操作する驚きの人形劇

・ベトナムの現在文化：

オートバイ地獄（バイク1台に4人乗りで道路上を4列満杯恐怖の走行）道路は信号機が少なく高速道路でも歩行者の横断が当たり前で交通事故が少ないのが不思議。バイクはホンダがダントツの1位で全体の6割、2位はスズキ。因みにベトナム全体のバイク台数は：2000万台/8000万人、ハノイで：150万台/350万人。



ハーロン湾クルーズ（世界遺産）ベトナム



アンコールワット（背景）カンボジア

3. カンボジア

（アンコール・トム）＝大きな都市を意味する。12～13世紀にジャヤバルマン7世が

建造した1辺が3kmの壁に囲まれた城塞都市で、中心にバイヨン寺院（須弥山）がある。アンコールトム壁面レリーフは当時の庶民生活・戦闘の様子を描いている。

(アンコール・ワット)=ワットはヒンズー教寺院で後にタイ・アユタヤの支配下で仏教寺院となる。12世紀にスーリヤバルマン2世が建造した巨大なヒンズー教寺院で王様の墳墓でもある。中央に須弥山塔堂を配したピラミッド型大伽藍で、壁面レリーフは古代インド叙事詩を描いている。



バイヨン寺院（アンコール・トム）



タ・プロム寺院

4. ベトナム・ホーチミン（旧サイゴン）

- ・メコン川下流域のメコンデルタ地域に有り、亜熱帯性気候で果物・魚に恵まれているフランス統治下の建造物：サイゴン大教会、中央郵便局などが貴重な建造物。
- ・華麗な長蛇の葬儀行列（豪華大名行列並みの葬儀に遭遇）
メコン川クルーズへ移動中に遭遇した葬儀は長さ数キロに渡り、霊柩車・親族・参列者・アルバイト参列者が続き、音楽が流れる中、悲しむ人は僅かで豪華な明るい仏式葬儀（現地では中国式と呼ぶ）
- ・評判のベトナム料理：比較的日本人に会うあっさり味で代表的なものとして
フォ・ボ・ガ：鶏肉と肉入りの米粉製麺≒日本のそうめん
デン・チャー・ジョー：生・揚げ春巻き
- ・暑さ対策で半袖にすると、蚊に噛まれてマラリアの心配があるので長袖シャツを着て虫除けスプレーを携行したが、幸い蚊には刺されることはなかった。
- ・朱印船貿易時代の日本銅貨が流通して、日本語の銅が訛りベトナム貨幣単位はドン。